

第4回 城下のまち鶴岡将来構想策定委員会

鶴岡駅
Tsuruoka Station



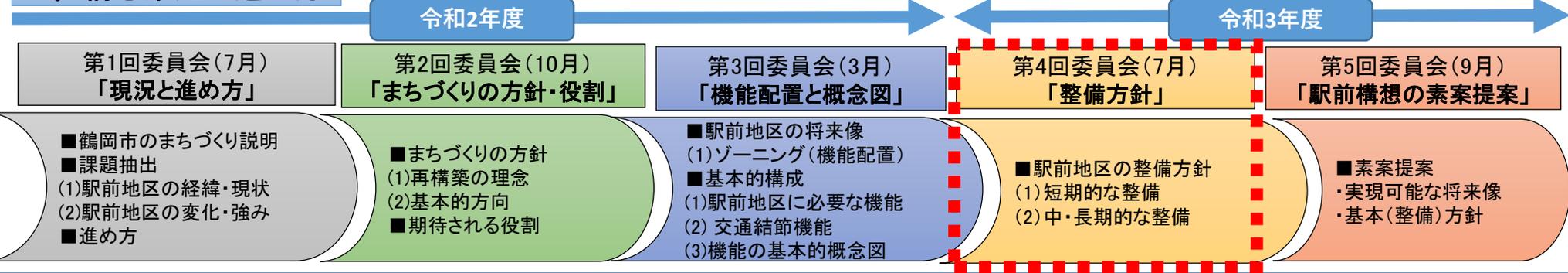
令和3年7月30日（金）
マリカ市民ホール

鶴岡市建設部都市計画課

1. 進め方とこれまでの経過
2. 駅前地区の整備の考え方 -新たな機能を構築する着眼点-
3. 駅前地区の整備方針（案）
4. 「令和の藩校」拠点の整備・運営方針（案）
 - ① 「令和の藩校」とは
 - ② 整備・運営方針
 - 1) 整備・運営期間の考え方
 - 2) 短期（初動期）の運営方針
 - 3) 中期（発展期）～長期（更新期）の整備・運営方針
5. プランニングチームからのご提案

1. 進め方とこれまでの経過（第1回～第3回）

1. 構想策定の進め方



2. 第3回委員会までの議論経過

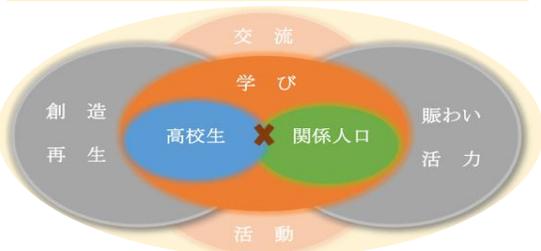
(1) まちづくりの方向性

- 「令和の藩校」
- 高校生を主体とした学びのサードプレイス

駅前を主に利用する高校生が集い、学び、憩い、交流し、そこから様々な体験や発信を通して、知己に関わり、そして未来につながる取り組みが持続する学館「令和の藩校」を目指す。

(2) 駅前地区の将来像

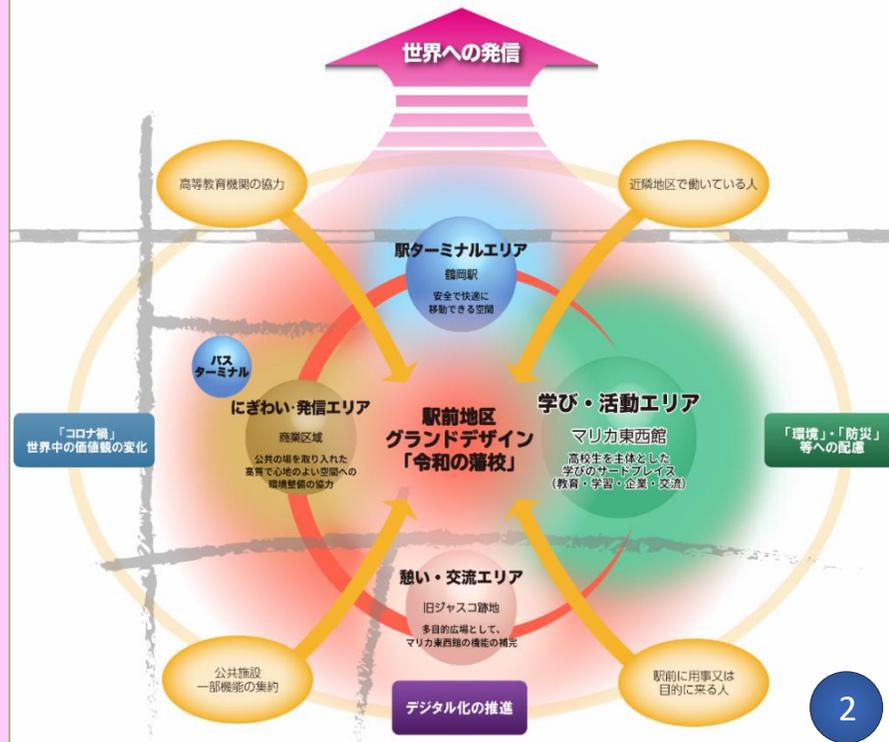
- 高校生が集い使う、賑わいのある「駅前」
- 学びの場、活動の場にあふれる「駅前」
- デジタルで広がり、新たな創造を生む「駅前」
- 歴史・文化の地から(力)、世界とつながる拠点「駅前」
- 高校生の愛着が育ち、誇りを持てる「まち」



(3) まちづくりの基本方針

- | | |
|---|---------|
| 方針1
高校生の学習、コミュニティ及び活動、活躍の場をつくる | 学び・活動 |
| 方針2
活力と創造が生まれ、持続・進化するまちをつくる | |
| 方針3
市民の学習、教育、起業など、学び・創成の場をつくる | |
| 方針4
人・地域が連携し人を惹きつけ、集まる、魅力あるまちをつくる | にぎわい・発信 |
| 方針5
周辺の地域資源と連携し、地域の価値を高める | |
| 方針6
誰もが楽しみ、利用しやすく安全な環境をつくる | 憩い・交流 |
| 方針7
人・車が安全・安心で円滑に利用できる交通環境をつくる | ターミナル |

(4) 鶴岡駅前の将来機能のイメージ



2. 駅前地区の整備の考え方 – 新たな機能を構築する着眼点 –

駅前地区の将来像の実現に向けて、各エリアが連携し
「令和の藩校」を創り上げる

駅前地区に新たな「令和の藩校」機能を構築する上で行政として必要な着眼点

第3回委員会の
提案内容

学び・活動

まちづくりの方針

にぎわい・発信

方針1

高校生の学習、コミュニティ
及び活動、活躍の場をつくる

方針4

人・地域が連携し人を惹きつけ、
集まる、魅力あるまちをつくる

方針2

活力と創造が生まれ、持続・
進化するまちをつくる

方針5

周辺の地域資源と連携し、
地域の価値を高める

方針3

市民の学習、教育、起業な
ど学び、創成の場をつくる

憩い・交流

方針6

誰もが楽しみ、利用しやすく
安全な環境をつくる

公共施設

方針7

人、車が円滑に移動、利用できる
交通環境をつくる

今回新たに提示

住民サービスの
質向上

公共機能の充実

デジタル化

着眼点

SDGsなど
時代の変化

男女共同
参画社会

国際交流
・多文化共生

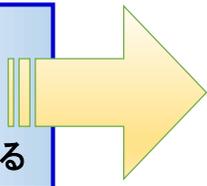
実現

「学び」の中核となる藩校の校舎を公共施設の利活用で実現
方針：使い方に合わせたリノベーションと、駅前への新たな役割の構築

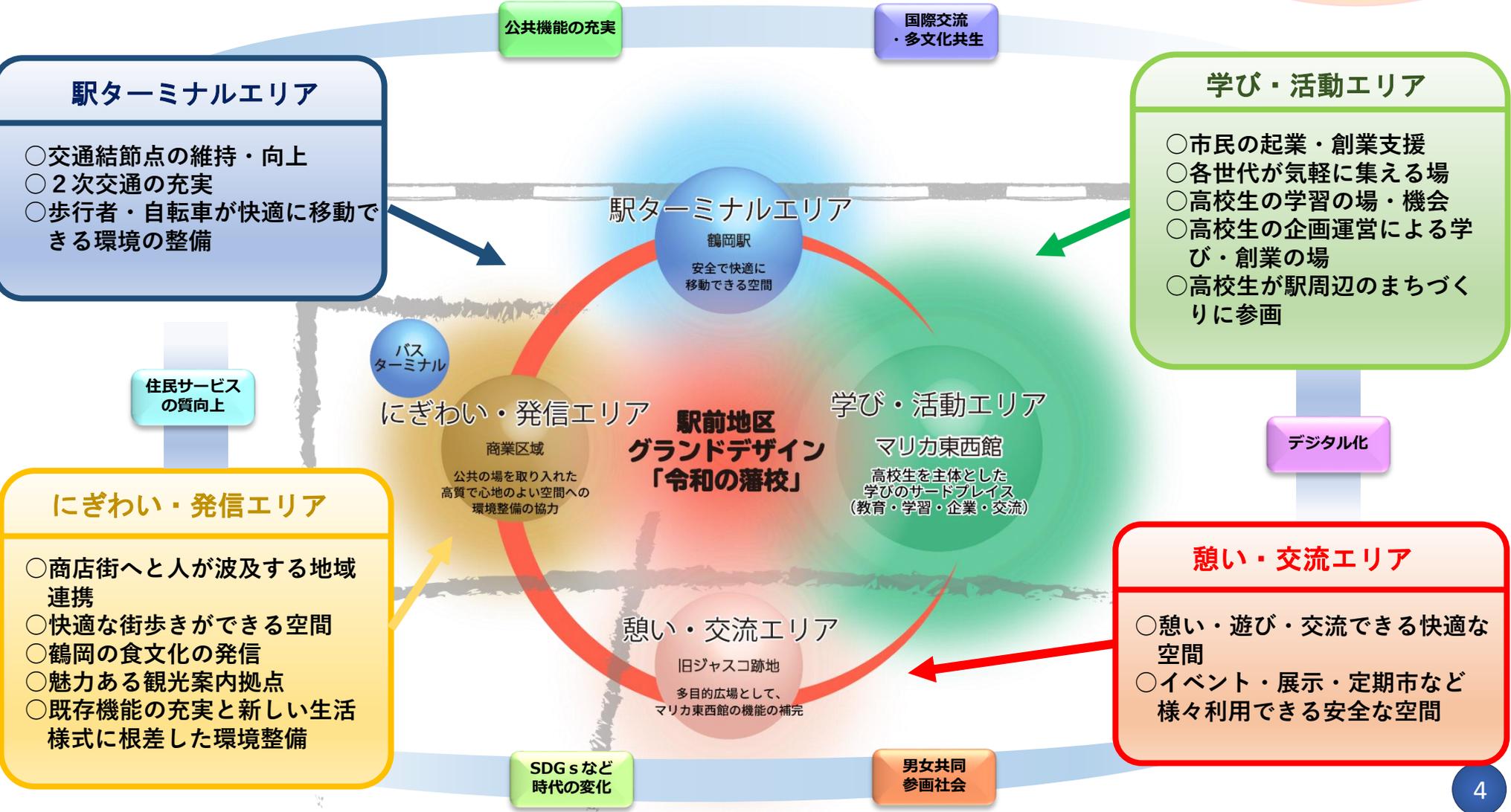
3. 駅前地区の整備方針（案）

整備方針

- ①「令和の藩校」の拠点となる「学び・活動エリア」の機能の充実を図る
- ②駅前地区全体に賑わいを波及できるように、エリアごとの機能充実を図りながら連携を強化する
- ③公共・歩行空間の確保、バリアフリー化による駅前地区全体の回遊性の向上を図る



駅前地区の価値を高め、
民間投資を呼び込む力を
高める



4. 「令和の藩校」拠点の整備・運営方針（案）①「令和の藩校」とは

庄内藩校 致道館の由来

論語「君子学ンデ以テソノ道ヲ致ス」

…勉学につとめることによって、学問の道を究め、人としていかに生きていくべきかが自然と身に着く

致道館の教学精神 「徂徠学」

- **天性重視・個性伸長**…一人一人の素質や得意な能力を伸ばす教育
- **自学自習**…学問は人から教わるものではなく、自分で考え学びとるもの
 - ・能力に応じた等級性・個別的指導
 - ・実学活学:学んだことを実践に活かす
- **会業の重視**
 - ・小集団での討論の場
- **心身鍛錬**
 - ・磯釣りなどに見られる文武両道の精神

現代にも通ずる教育観



史跡旧致道館

令和の藩校

致道館をルーツに新たな視点を取り入れた、

現代・未来に向けた

『学びの場』・『人材育成の場』・『まち育ての場』

4-②. 整備・運営方針 1) 整備・運営期間の考え方

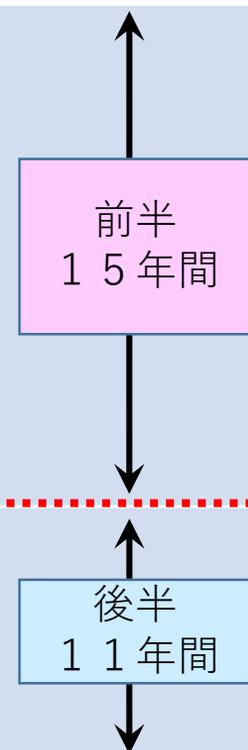
■「令和の藩校」の拠点整備・運営を進めるにあたって、「令和の藩校」の運営内容に基づき段階的に期間を設定します。

■「令和の藩校」の拠点施設として、市所有施設であるマリカ東館の活用が可能です。

- ・駅前地区の拠点施設かつ市所有の施設であり、「令和の藩校」機能を展開するために活用可能な床面積がある。
- ・建物のライフサイクルコストの試算の結果、長寿命化による効果的な使用期間は最長で現在から26年後の令和29年（2047年）までとなり、設備等の改修により、最低でも15年後までは施設全体を有効に活用できると判断。
- ・マリカ西館については、建物に関する情報提供を進めつつ、「令和の藩校」との連携を図るため、管理組合の意向を確認しながら、市が所有する床の活用を図っていく。



期 間		項 目
<p>短期（初動期）：5年間 令和4年～8年 (2022～2026)</p>	<p>「令和の藩校」の社会実験・ 検証の期間</p>	<p>5年ごとに評価及び計画 のローリングを実施</p>
<p>中期（発展期）：10年間 令和9年～18年 (2027～2036)</p>	<p>新たな仕組みでの事業展開 の期間</p>	
<p>長期（更新期）：11年間 令和19年～29年 (2037～2047)</p>	<p>新たな施設への転換に向け た再調整・更新準備期間</p>	<p>再調整期間・更新準備 評価・見直しを行い、社会的要 求水準等にあわせて再整備等の 時期を決定</p>



4-②-2) . 短期（初動期）の運営方針

期間	運営方針	展開場所
短期（初動期）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「令和の藩校」の校舎として、幅広い世代に「学び」を提供 ■ 高校生をターゲットとした学習・交流の場の創出 ■ 社会実験等の実施による効果の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「令和の藩校」の仕組み、枠組みの構築 ・ 民間活力の導入を視野に入れた体制検討（P-PFI等官民連携） ■ 「令和の藩校」のグラウンド・広場 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「令和の藩校」のグラウンド・広場とし、発表・展示・イベントの場として活用 ・ にぎわい創出に向けた社会実験の実施 	<p>マリカ東西館</p>  <p>旧ジャスコ跡地等</p>   <p>旧ジャスコ跡地 マリカ広場</p>

連携する機能

食文化、SDG s、国際交流、多文化共生、学校教育、生涯学習、リカレント教育、先端科学、ビジネス支援、デジタル化、etc

高等教育機関、地域コミュニティ、商店街、地元企業、etc

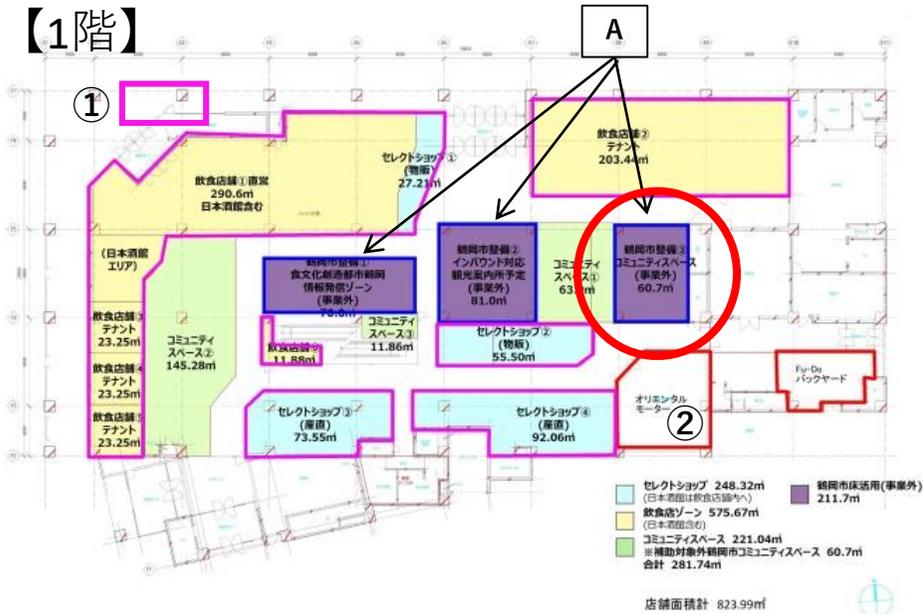
<PTからの事例紹介> 「令和の藩校」の枠組み、理想の運営方法、財源確保の方法について

4-②-3) . 中期（発展期）～長期（更新期）の整備・運営方針

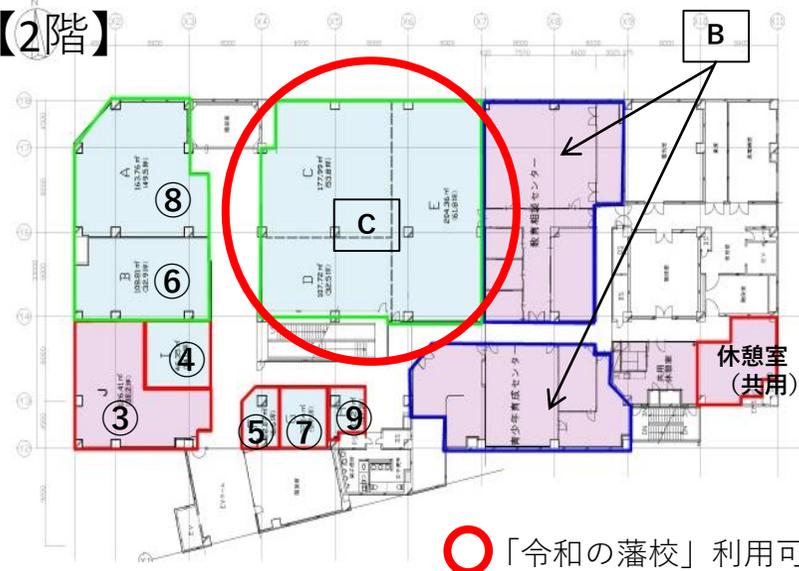
期間	運営方針	展開場所
<p>中期（発展期）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期で行う社会実験を踏まえた事業展開 ■ 運営形態に沿ったリノベーションを実施 ■ 民間活力を取り入れた魅力あるコンテンツ 等の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・公共機能の駅前での事業展開 ・持続可能な運営体制の構築 ・マリカ周辺機能との連携（にぎわい・交流エリア、駅ターミナルエリアとの連携） ■ 「令和の藩校」の多目的広場 <ul style="list-style-type: none"> ・マリカ東館と一体的な「令和の藩校」の事業展開の場のグラウンド・広場として整備 ・憩いの空間、交流できる空間、商業利用が可能でにぎわう場 ・市民が滞留する空間 <p><マリカ広場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリカ東西館及び駅ターミナルエリアと連携した活用 	<p>マリカ東館</p>  <p>旧ジャスコ跡地等</p> <p>▼ nest marche（池袋グリーン大通り）</p>  <p>https://localnippon.muji.com/4900/</p>
<p>長期（更新期）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再調整期間・更新準備 <ul style="list-style-type: none"> ・評価・見直しを行いながら、社会的要求水準等にあわせて再整備等の時期を決定 	

【参考資料】 マリカ東館の床利用状況（令和3年7月現在）

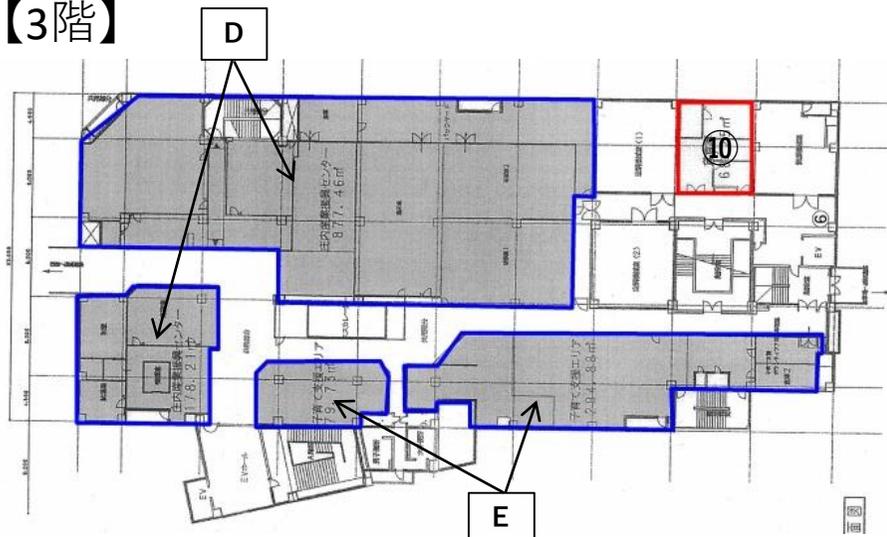
【1階】



【2階】



【3階】



階	区画	用途	面積m ²
1階	①	FOODEVER区画	773.53
	②	民間事務所	67.60
2階	A	観光案内所、出羽三山・食文化情報、文化体験スペース	238.91
	③④⑤⑥	民間事務所	計303.64
	⑦	民間倉庫	32.14
	⑧	DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー	163.76
	⑨	空き	17.27
3階	B	教育相談センター	541.39
	C	新型コロナウイルスワクチン接種対策室	490.07
	⑩	民間倉庫	68.25
	D	庄内産業振興センター	1055.67
	E	まんまルーム	374.61

第4回 城下のまち鶴岡将来構想策定委員会

〈プランニングチームからのご提案〉

2021.7.30

2021年度PTのミッション:ビジョンを実現する打ち手（具体策）の素案づくり

「令和の藩校」拠点 マリカの将来像

- 鶴岡の高校生が、集い、誇れる、自慢したくなる鶴岡駅前を目指す。
- 鶴岡の高校生が、「マリカ」からまちとつながる。（多世代との交流）
- 鶴岡の高校生が、「マリカ」から世界とつながる。（デジタルの活用）

※第3回委員会で承認

PTが考える令和の藩校とは、

「庄内藩校 致道館」をルーツとした
(当時の教え)

徂徠学

未来のまちと人をつくる「令和の藩校」
(学びのサードプレイス)

①天性重視・個性伸長

一人一人の素質や得意な能力を伸ばす教育

②自学自習

学問は人から教わるものではなく、自分で考え学びとるもの

- ・能力に応じた等級性・個別的指導
- ・実学活学:学んだことを実践に活かす

③会業の重視

小集団での討論の場

④心身鍛錬

釣道（磯釣りなど）に見られる文武両道の精神

①天性重視・個性伸長

デジタルを使いこなし、世界で通じる個性豊かな人材
(次世代リーダー、起業家等)を育成する

②自学自習

まちに学び、まちに活かす

③会業の重視

年齢や立場関係なく、ゼミナール形式で、多世代でつながり
学び合う

④心身鍛錬

豊かな自然に身を置き、体験から学び行動する

「令和の藩校」のありかた

①天性重視・個性伸長

デジタルを使いこなし、世界で通じる個性豊かな人材（次世代リーダー、起業家等）を育成する

②自学自習

まちに学び、まちに活かす

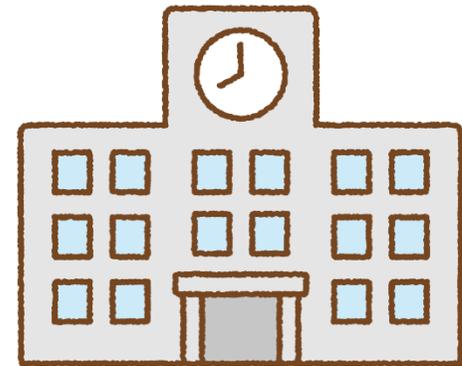
③会業の重視

年齢や立場関係なく、ゼミナール形式で多世代でつながり学び合う

④心身鍛錬

豊かな自然に身を置き、体験から学び行動する

徂徠学



「令和の藩校」は、こんな学校です

- ・高校生を主体に、多様な市民が学び合える場所
- ・市民の経験を活かし、実践できる場所
- ・鶴岡の今と未来をつなぐ場所
- ・鶴岡の元気が集まる場所

2021年度PTのミッション:ビジョンを実現する打ち手（具体策）の素案づくり

「令和の藩校」の拠点施設となる、「マリカ東館と旧ジャスコ跡地」を
理想的・持続的に運営していくためには、

これまで鶴岡市として導入していない、
新しい枠組みと財源確保の手法

の検討が必要と考えます。

参考事例①

※陳内様より

SDGsの視点と財源確保の手法

- ・SDGs未来都市
- ・企業版ふるさと納税

参考事例②

※古田様より

枠組み、民間活用、運営体制

- ・Park PFIモデル
(香川県三豊市の例)

参考事例①

1.SDGsの視点

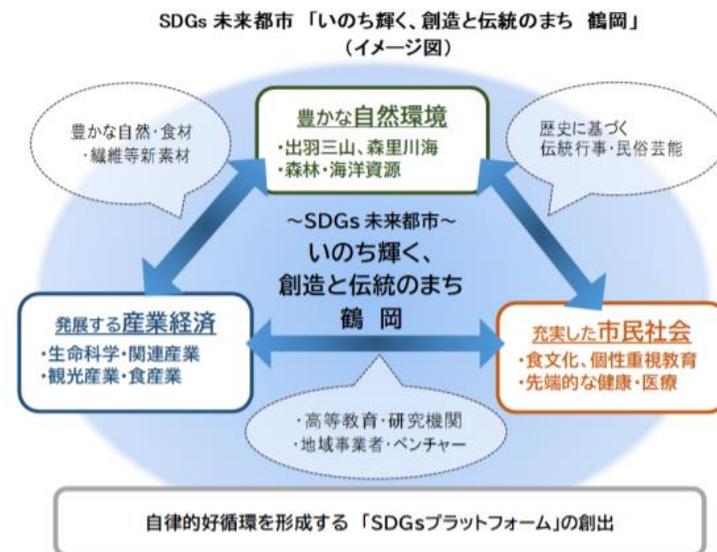
「SDGs未来都市」とは、内閣府においてSDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市の中から、特に経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市が選定されるものです。

※鶴岡市も令和2年7月17日にSDGs未来都市に選定

鶴岡市SDGs未来都市計画

～森・食・農の文化と先端生命科学が共生する
“いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡”

“令和の藩校とは” のビジョン、定義づくり、運営方針の参考になると思います。この計画のどの部分を今回のプロジェクトが担うのかをシャープに決めていけると良いかと思っています。



※鶴岡市 SDGs 未来都市計画 より抜粋

2.財源確保の手法例

企業版ふるさと納税

【制度概要】

出典:内閣官房・内閣府総合サイト

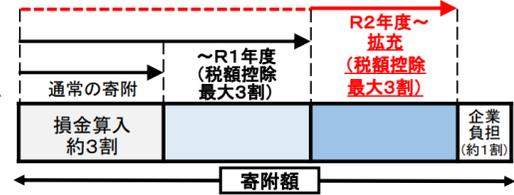
企業版ふるさと納税

地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について法人関係税を税額控除

制度のポイント

- 企業が寄附しやすいよう、
 - ・損金算入による軽減効果に税額控除による軽減効果を上乗せ
 - ・寄附額の下限は10万円と低めに設定
- 寄附企業への経済的な見返りは禁止
- 寄附額は事業費の範囲内とすることが必要

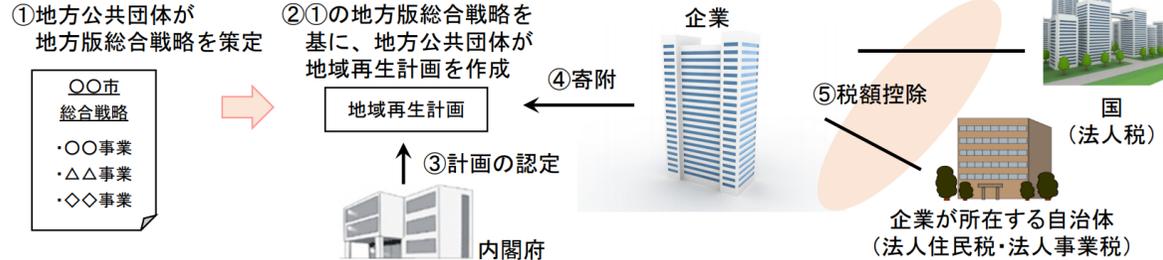
- ※ 不交付団体である東京都、不交付団体で三大都市圏の既成市街地等に所在する市区町村は対象外。
- ※ 本社が所在する地方公共団体への寄附は対象外。



例) 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減。

- ①法人住民税 寄附額の4割を税額控除。(法人住民税法人税割額の20%が上限)
- ②法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。ただし、寄附額の1割を限度。(法人税額の5%が上限)
- ③法人事業税 寄附額の2割を税額控除。(法人事業税額の20%が上限)

活用の流れ



◆ 地域再生計画の認定を受けた地方公共団体の数:46道府県1,148市町村(令和3年度第1回認定後)

- 令和の藩校の企画に賛同する企業寄付⇒法人寄付
- 市外の関係人口拡大⇒個人寄付 (返礼品・サービス開発)

2.財源確保の手法例

企業版ふるさと納税

【活用事例】

全国の特徴的な取組より抜粋
<https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/portal/jirei.html>

企業版ふるさと納税活用事例

北海道
東川町

町に回帰する
人材育成サイクルを構築

地方創生人材育成サイクル構築プロジェクト



高校生海外派遣事業（ロシア）に参加した生徒たち

寄附活用事業の概要

奨学助成や国際教育で、世界に通じる人材を育成

北海道のほぼ中央にある東川町は、「写真の町」として知られるほか、良好な生活環境や自由なライフスタイルを背景に、人口が増加傾向にある全国でも珍しい町です。また、国際交流が盛んで、国内初となる公立日本語学校で学ぶ外国人留学生と住民との交流も行われています。本プロジェクトは、こうした町の魅力に共感した企業からの寄附を活用して、**奨学助成や国際教育の推進、起業化支援**などを行うものです。人材育成及び地域回帰の仕組みづくりを進めることで、東川町で生まれ育った子どもたちの**郷土愛を育み、将来的に「人材」として東川町に戻ってくるサイクルを構築**します。

寄附活用事業の成果

支援を受けた子どもたちの郷土愛が深まった

- 子どもたちの意識が変化し、町に対して誇りをもつようになった
- 高校生海外派遣に参加した生徒が海外の大学へ進学
- 毎年10名ほどが起業しており、町が活性化
- 移住者やUターン者など、優秀な人材が集まるようになった



東川町から都市部や海外等地域外に進学する者に返済不要の奨学助成を実施

寄附活用事業の概要

奨学助成や国際教育で、世界に通じる人材を育成

北海道のほぼ中央にある東川町は、「写真の町」として知られるほか、良好な生活環境や自由なライフスタイルを背景に、人口が増加傾向にある全国でも珍しい町です。また、国際交流が盛んで、国内初となる公立日本語学校で学ぶ外国人留学生と住民との交流も行われています。本プロジェクトは、こうした町の魅力に共感した企業からの寄附を活用して、**奨学助成や国際教育の推進、起業化支援**などを行うものです。人材育成及び地域回帰の仕組みづくりを進めることで、東川町で生まれ育った子どもたちの**郷土愛を育み、将来的に「人材」として東川町に戻ってくるサイクルを構築**します。

寄附活用事業の成果

支援を受けた子どもたちの郷土愛が深まった

- 子どもたちの意識が変化し、町に対して誇りをもつようになった
- 高校生海外派遣に参加した生徒が海外の大学へ進学
- 毎年10名ほどが起業しており、町が活性化
- 移住者やUターン者など、優秀な人材が集まるようになった

地方公共団体 寄附受入れの経緯・工夫

株式会社ホクリクによる寄附の申し出から始まった事業であり、立案段階から関わっていただくことで「世界に通じる人材育成」という同社の思いが事業に強く反映されています。また、当町では、町と連携・協力してくれる企業に対してさまざまなサポートを行う、**町独自の「オフィシャルパートナー制度」を構築**していることもあり、町そのものや事業内容に魅力を感じてくださった企業から寄附の申し出をいただくケースが多く、まちづくりに共感してくれた企業との繋がりが深まっています。寄附の申し出があった際には、日常的に活発なコミュニケーションがある**部署間の連携を生かし、即座に対応できる体制が整っていたこと**も寄附の獲得につながっています。

寄附企業 寄附の経緯・効果

人材育成という事業であるため、東川町だけでなく地域全体に貢献できることに魅力を感じ、寄附を決めました。また、同町は「オフィシャルパートナー制度」を通じて多くの企業とパートナーシップを構築している実績があり、同町と連携することは当社にとっても大きなメリットであると考えています。

事業分野	人材育成
事業期間	2017年4月～2020年3月
総事業費	326,184千円
寄附額	306,000千円
寄附件数	12件
寄附企業名	株式会社ホクリク、株式会社良品計画ほか10社

令和2年度
大臣賞
受賞

SDGs 関連するゴール

4 質の高い教育をみんなに
11 持続可能なまちづくりを推進
17 パートナーシップで目標を達成しよう

▶（問い合わせ先）東川町 東川スタイル課 ☎0166-82-2111

参考事例②

父母ヶ浜

パークPFIモデル





1. 父母ヶ浜について (ちちぶの会)

父母ヶ浜を守る人、父母ヶ浜を守る活動



ちちぶの会 (左から、菅さん・塩田さん・鶴田さん)

実は、夕日が綺麗なこの干潟は、23年前に工場用地として開発が決まっている土地でした。雇用も生み、経済がまわる。当時の時代背景からしても、当然のことでした。そんな時に、たった3人で反対した方たちがありました。最初は、小さな反発心で始めた清掃活動。時代は流れ、工場の建設は中止となりましたが、それ以来ずっと、この3人はボランティアで海岸のゴミ拾いをし続けています。「だからこそ、裸足で歩ける綺麗な干潟がある。どんなに経済が発展しても、これ以上に価値のあるものはない。」今も尚、この清掃活動は続いており、「日本一夕日がきれいな海岸」を守り続けています。





未来に残すべきものを受け継ぎ、紡いでいく



「父母ヶ浜を受け継ぐ会」の3社
左:瀬戸内うどんカンパニー 北川さん
中央:イマガワ 今川さん

地元で活躍する2社とチームを組み、父母ヶ浜の指定管理を三豊市から受託。4月からこの場所を起点にしたまちづくりに携わります。

▼3社の役割

代表/パークデザイン・パークマネジメント

東邦レオ株式会社

- ENGAWA ランドスケープ、環境デザイン
- パークマネジメント、実務経験
- 保存樹木を主とした環境調査業務の豊富な実績
- 安定した財務基盤をもつ独立系中堅企業



地域とともに
新しい価値を創出する
各専門性をもつ
企業グループ

運営・現場マネジメント

株式会社イマガワ

- 地元食材の仕入れ力
- 小売、飲食サービス運営の実績
- 地元コミュニティとネットワーク
- 緊急時対応



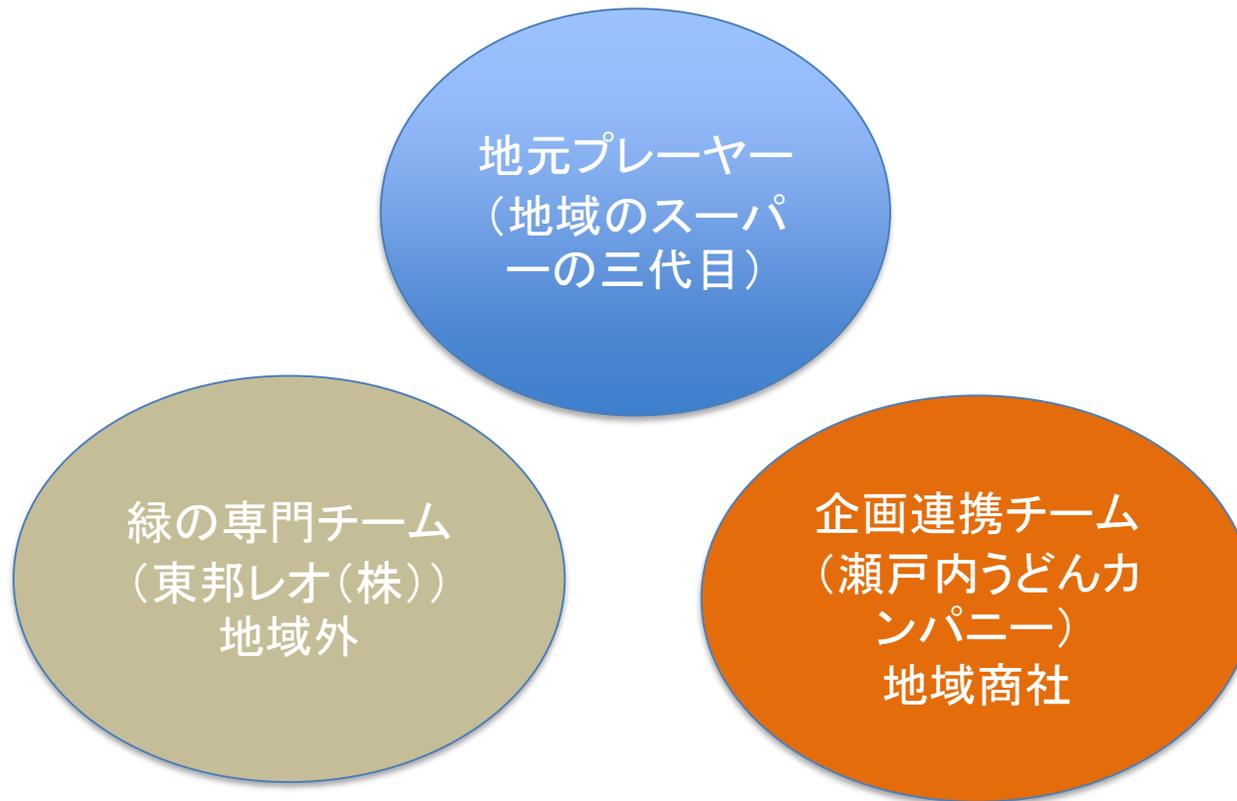
事業企画・広報

瀬戸内うどんカンパニー

- 地域資源活用した事業プロデュース力
- 市内異業種とのネットワーク
- IT、システム構築業務実績



「ちちぶの会」の取り組みを受け継ぎ、
「賑わい創出」と、地域活性化に繋がる「自主事業」を実践



■ 指定管理費 => なし

■ 土地利用賃借権 => 年間120万を三豊市に支払い

市の財政の支出を抑え、収益をあげる。

指定管理者はその代わりに、年間を通してのこの場所の営業権を持つ。

4/21 芝生貼りワークショップ



(株)イマガワの今川さん
三豊市の職員、ちちぶの会
を含めて約20名が参加。



父母ヶ浜PORT (東邦レオ)



hand in hand (瀬戸内うどんカンパニー)



宗一郎珈琲（ウルトラ今川）

